

## クジラのぼりの由来 作成の経緯

宮崎市佐土原町と“くじら”との関わりは江戸時代にまで遡りますが、捕鯨が盛んだった訳ではありません。

江戸時代、佐土原島津家に男子（島津惟久（しまづ ただひさ 1675 年生～1738 年没））が生まれた時、その生母「松寿院」が「鯨のように大きく、力強く育て欲しい」と、藩の御用菓子屋に献上させた「くじらようかん」がその始まりです。

松寿院の願いが叶い「惟久」は立派な領主になりました。このことからクジラが佐土原の縁起物となっています。

そして平成になり、地元のまちおこしグループ「佐土原くじら会」のメンバーが発案、モデル蛸原友里の母校、佐土原高校産業デザイン科の教諭がデザイン、2年間の試行錯誤のうえ、平成8年より、現在の飛行機のように水平に泳ぐことが可能な「くじらのぼり」が佐土原の空を泳ぐようになりました。

そこで、佐土原町商工会青年部がこのクジラのぼりをみてもらい、大きくたくましい佐土原っ子になってもらいたいと願い平成16年の春から掲揚を始めました。（R2年で17回目）

現在も、松寿院の「鯨のように大きく、力強く育て欲しい」との願いそのままに、佐土原の各家庭の空を泳いでいます。

※佐土原町・・・1896年4月1日 佐土原村が町制施行、佐土原町となる  
2006年1月1日 宮崎市と合併、宮崎市佐土原町となる

※鯨ようかん・・・米の粉を練ったものをあんこで挟んで蒸し、鯨に似せた和菓子。  
日持ちがしないため、「菓子の刺身・幻のお菓子」ともいわれ、とても希少な銘菓。